

# ミュージズ No. 21 平和のための博物館・市民ネットワーク通信

発行：2008年7月

編集：山辺昌彦、山根和代、安斎育郎

翻訳：安藤 眞、山根和代 イラスト：戸崎恵理子

事務局所在：東京大空襲・戦災資料センター内 山辺昌彦気付

住所：東京都江東区北砂1-5-4

Tel: 03-5857-5631 Fax: 03-5683-3326

全国の平和博物館、平和資料館などの活動について、お知らせします。

## 「平和のための博物館・市民ネットワーク」

### 第8回全国交流会のお知らせ

「平和のための博物館・市民ネットワーク第8回全国交流会」が2008年10月8日(水)午後1時～6時に立命館大学国際平和ミュージアムの会議室で開催されます。第6回国際平和博物館会議の日程内で開かれますが、交流会には、国際平和博物館会議の参加申し込み者でなくても無料で参加できます。今回は時間が短いので、各館の近況紹介が中心になります。交流会の最後に、「平和のための博物館・市民ネットワーク」の会計・事業報告もします。終了後、懇親会を開く予定です。是非ご参加ください。

## 国内ネットワークのニュース

### 太平洋戦史館：岩手

『戦史館だより』No.64には、「戦没者遺児による慰霊友好親善事業西部ニューギニア訪問」参加報告、また野々口義雄さんの遺品(水筒)が家族のもとへ「復員」という記事が紹介されています。

また『戦史館だより』No.65には、「靖国」は放置遺体を忘却させる装置なの？」「認定NPO申請受理されず門前払いに！」などの記事が紹介されています。

Tel: 0197-52-3000 Fax: 0197-52-4575

### 仙台市歴史民俗資料館：宮城

「戦争と庶民の暮らし」が2008年6月21日～11月3日の会期で開催されています。仙台地方を中心に戦争と庶民のかかわりについて考えるものです。西南戦争から日清・日露戦争、第1次世界大戦、満州事変、日中戦争、アジア太平洋戦争などに関する資料を紹介しています。図録を刊行しています。



Erico

関連講座「戦争と庶民の暮らし」が6月21日に開かれ、立命館大学名誉教授の岩井忠熊さんが、関連講座「戦争と庶民の暮らし」が6月28日に開かれ、元東北大学教授安孫子麟さんが、関連講座「戦争と庶民の暮らし」とが7月5日と12日に開かれ、みやぎの近現代史を考える会会長一戸富士雄さんが、それぞれ戦時下の庶民がどのような日々を過ごしていたのか、戦争と庶民の関わりについて、話しました。

関連講座、紙しばい「青い目の人形ものがたり」が7月25日に開かれます。戦前に日米友好の証(あかし)として日本に贈られた「青い目の人形」がたどった数奇な運命を、紙しばいで紹介します。

関連講座「青い目の人形ものがたり」が7月26日に開かれ、みやぎ「青い目の人形」を調査する会代表の斎藤俊子さんとみやぎ「青い目の人形」を調査する会事務局長の雫石とも子さんが話されます。

Tel:022-295-3956 Fax:022-257-6401

<http://www.city.sendai.jp/kyouiku/rekimin/>

### 山形県立博物館：山形市

「企画展 少年雑誌にみる戦中・戦後 - 『週刊少国民』から『こども朝日』へ」が2008年5月24日~7月6日の会期で開催されました。戦中から戦後にかけて、朝日新聞社から刊行された少年雑誌『週刊少国民』と『こども朝日』を紹介するもので、戦時中、少国民と呼ばれた子どもたちに戦争はどのように関わり、また、戦争の行く末は子どもたちの暮らしや文化にどのような影響を与えたのかを考える趣旨で、戦中・戦後における子どもたちの激動を映し続けた1つの少年雑誌に焦点をあて、戦争から平和へのあゆみを振り返るものです。

Tel:023-645-1111 Fax:023-645-1112

<http://www6.ocn.ne.jp/~ykmuseum/>

### 埼玉県平和資料館：東松山市

2007年度テーマ展「壁新聞が伝えた新しい時代 - 広報媒体にみる戦後埼玉」が企画展示室で2008年3月8日~5月6日の会期により開催されました。戦後、埼玉県が発行した壁新聞「埼玉メガホン」などの広報関係資料を展示し、占領期を中心とした埼玉県の世相を紹介していました。

2008年度テーマ展「寄贈資料が語る戦争の記憶 - 平成19年度新収集資料展」が企画展示室で2008年5月17日~6月29日の会期により開催されました。

Tel:0493-35-4111 Fax:0493-35-4112

<http://homepage3.nifty.com/saitamapeacemuseum/>

### 丸木美術館：埼玉・東松山市

企画展「いのちをつなぐ希望の木 - 柿の木プロジェクト in からこ」が2007年12月22日~2008年3月29日の会期で開催されました。丸木位里は、妻、俊とともに描いたヒロシマ「原爆の図」を背負いながら全国を行脚し生涯にわたって世界に平和の尊さを訴え続けました。彼が原爆投下後、広島に地をたどりついたのは、1945年8月9日でした。それは、ヒロシマに原爆が落とされた3日後で、しかも、同じ8月9日、今度は長崎に原爆が落とされていたのです。長崎も、

広島と同じように原爆により、一瞬のうちに一面焦土と化していました。しかし、そんな中、半身を真っ黒に焼け焦げにしながらも、尚、奇跡的に生き残った「柿の木」がありました。やがて、被爆「柿の木」は、樹木医の海老沼正幸さんの手厚い治療を受け、2世の赤ちゃんを産み出すことに成功しました。この「被爆柿の木赤ちゃん」は、やがて、美術家の宮島達男さんとの出会いを通し、アートの力で世界中の子どもたちへ平和のメッセージを伝える使者「時の蘇生」柿の木プロジェクトへと生まれ変わったのです。原爆投下から60年あまり、世界各地を巡ったこの2つのメッセージは、ホタルの光に導かれるように、昨年唐子の地で出会いました。この展覧会では、柿の木プロジェクトの10年にわたる歩みと、昨年からの唐子小学校を中心におこなっている東松山市での取り組みを、位里の母で自然讃歌の絵を描いた丸木スマの柿にちなんだ作品や、ホタルの里、児童文学「天の園」など地域ゆかりの資料とともに展示しました。

企画展「オリーブ・プロジェクト展」が2008年4月6日~6月28日の会期で開催されました。2000年9月、イスラエルのリクード党首、シャロンの、エルサレム旧市街「ハラム・アッシャリーフ」強行訪問に端を発する第2次インティファダ以来、引き抜かれたオリーブ樹は50万本(2005年3月末)に及びます。オリーブ・プロジェクトは、イスラエル軍によって引き抜かれたオリーブ畑に苗木の植樹を推進するパレスチナYWCAと東エルサレムYMCAの共同事業、「オリーブの樹キャンペーン」支援のために2004年に立ち上げられました。当時、東エルサレムYMCAの幹事だったジュデ・マッジャーの強い要望に「占領に反対する芸術家たち」が応えたものです。2004年10月、世界各地から「占領に反対する芸術家たち」メンバーがパレスチナに集まり、ローマン・オリーブと呼ばれる古木をいくつも取材しました。作品になるのを待って、2006年5月、その1回展を東京、キッド・アイラック・アート・ホールの協力で開催、2007年1月から4月まで、ベツレヘム国際センター、ビルゼイト大学美術・博物館、東エルサレムのアルホーシュ画廊とパレスチナを巡回、同年7月、ヒロシマに遭った被爆建築の1つ、旧日本銀行広島支店を会場に、被爆樹とパレスチナのオリーブを結ぶ展覧会を、広島市立大学の教員・学生有志で構成する実行委員会が主催しました。今回の丸木美術館展は第6回となりますが、回を重ねるごとに新たな参加者を得、充実の度を増しています。絵画、版画、彫刻、陶板、写真、ビデオ、ドキュメンタリー、インスタレーション、詩と多様な表現を包含しつつ、ただ1つ「パレスチナのオリーブ」にスポットをあてるこの国際展を、イスラエル建国から、つまりはパレスチナ人にとっての災厄、ナクバから60年の季節も今、オリーブオイルさえ食卓から消えたガザで進行するジェノサイドとともに、多くの人に観て欲しいという趣旨で開かれました。

#### 東京大空襲・戦災資料センター：東京・江東区

特別展「VOICE - 知らない世代からのメッセージ」展が、2階会議室で、2007年12月6日～2008年1月14日の会期で開催されました。アートに何が伝えられるのか - 「VOICE」展はこの問いを出発点に、戦争に向き合おうとする若い世代のアーティストと、東京下町を拠点に空襲体験を伝えてきた戦災資料センターの共同作業により実現した展示です。2007年5月から準備をはじめ、下町をテーマに写真を撮り続ける写真家・大西みつぐさんの指導を受け、展示をつくりあげています。「あなたなら、戦争をどう伝えますか」という資料センターからの問いかけに、20代～30代の5人のアーティストや映像作家をめざす学生たちから4つの作品が結実しました。それは、早稲田大学学生の蒲生美緒さんの映像「トウキョウ・ソラ・ヒト」、慶応大学学生の鳥居巧さんと村松佑樹の映像「祈りの瞬間の中で - 広島・長崎・東京」、フリーカメラマンの広瀬美紀さんの写真「Requiem 東京大空襲の今」、フリーカメラマンの渡辺祐一さんの写真「FORCE」の4作品です。

「東京大空襲・戦災資料センター開館6周年 東京大空襲を語り継ぐつどい」がカメラアホールで2008年3月8日に開かれました。脚本家の小山内美江子さんが「二度とあってはならぬこと」と題して講演し、橋本代志子さんが3月10日の体験を語り、東京大空襲・戦災資料センターでの東京大空襲を語り継ぐ取り組みの紹介がありました。

2008年2月20日に、2007年10月20日に戦争災害研究室主催で開催したシンポジウムの報告書『シンポジウム「無差別爆撃の源流 - ゲルニカ・中国都市爆撃を検証する」報告書』が刊行されました。

戦争災害研究室の第13回研究会は2007年12月16日に政治経済研究所で開催され、山辺昌彦さんが「2007年における平和のための博物館の戦争関係特別展の動向 - 戦争展示調査の中間報告」と題して報告しました。

第14回研究会は2008年2月23日に政治経済研究所で開催され、大岡聡さんが『戦災復興の日英比較』の書評をしました。

第15回公開研究会は2008年3月1日に東京大空襲・戦災資料センターで開催され、荒井信一さんが「東京大空襲はいつ決定されたか」と題して報告しました。

第16回研究会は2008年3月29日に明治大学の研究棟で開催され、吉田裕さんが『殉国と反逆』の書評をしました。

第17回研究会は2008年5月24日に政治経済研究所で開催され、高橋未沙さんが「敗戦直前期における厭戦感の地方への拡大 人員疎開の検討を通して」と

題して報告しました。

第18回研究会は2008年6月16日に政治経済研究所で開催され、老田裕美さんが「重慶空襲など奥地爆撃の被害について」と題して報告しました。

『戦争災害研究室だより』が発行され、第12号では第12回研究会の報告が、第13号では第13回研究会の報告が、第14号では第14回研究会の報告が、それぞれ掲載されています。

戦争災害研究室の第13回研究会の山辺昌彦さんの報告の一部は論文化され、政治経済研究所の学術研究雑誌『政経研究』90号(2008年5月刊)に「地域歴史博物館の戦争関係特別展と平和博物館の開設」として掲載されました。

Tel:03-5857-5631 Fax:03-5683-3326

<http://www.tokyo-sensai.net/>

#### 高麗博物館：東京・新宿区

「生きべくんば民衆とともに、死すべくんば民衆のために 布施辰治展 朝鮮人民衆と共に生きた人権弁護士」が2008年3月26日～6月1日の会期で開催されました。これは、2007年8月8日～10月21日の会期で開かれた布施辰治展が好評だったので、再度開催されたものです。今回は、前回展示した青磁、ノート、雑誌、表彰状などの現物資料の展示はありませんでした。

Tel & Fax:03-5272-3510

<http://www.40net.jp/~kourai/>

#### 昭和館：東京・千代田区

特別企画展「オリンピック 栄光とその影に - アムステルダム大会から東京大会まで」が3階の特別企画展会場で2008年2月23日～4月10日の会期により開催されました。昭和に入って最初のオリンピックである第9回アムステルダム大会から、戦後の第18回東京大会までを通して、各時期におけるオリンピックの姿や日本とオリンピックの関わり、戦争とオリンピック、日本人メダリストの活躍やエピソードなどを紹介していました。

特別写真展「昭和の原風景 - 石川光陽が撮った昭和の町並み・空襲・世相」が3階の特別企画展会場で2008年4月26日～5月11日の会期により開催されました。警視庁の専属カメラマンであった石川光陽が撮った、メーデー、2.26事件、東京と福井の空襲被害などの写真が展示されました。

Tel:03-3222-2577 Fax:03-3222-2575

<http://www.showakan.go.jp/>

#### 豊島区立郷土資料館：東京

研究紀要『生活と文化』第17号が、2007年3月14



日に刊行され、青木哲夫さんの「1945年2月25日東京空襲(雪天の大空襲)小論」、黒尾和久さんの「試論・画家と戦争記憶 - 今井繁三郎氏の従軍体験を手がかりに」などが掲載されています。

調査報告書第20集、集団学童疎開資料集(9)『日記・書簡編 - 長崎第二国民学校(その2) 長崎第三国民学校』が2008年2月20日に発行されました。

Tel:03-3980-2351 Fax:03-3980-5271

<http://www.museum.toshima.tokyo.jp/top.html>

### かつしか郷土と天文の博物館：東京・葛飾区

考古学セミナー「近代化と戦争 - 近代・現代の考古学」が2008年5月4日に開かれ、学芸員の谷口栄さんが葛飾の戦争遺跡や空襲について話しました。

博物館ボランティアの葛飾探検団の調査報告書『可豆思賀』第3号が、かつしか郷土と天文の博物館から2008年3月27日に刊行され、岡正雄さんの「日露戦争記念碑」、林智勇さんの「昭和20年3月10日東京大空襲に思う」などが掲載されています。

Tel: 03-3838-1101 Fax:03-5680-0849

<http://www.city.katsushika.tokyo.jp/museum/>

### 地球市民かながわプラザ：横浜市

「ジョー・オダネル『ヒロシマ・ナガサキ』写真展」が企画展示室で2008年6月7日～7月13日の会期により開催されました。終戦直後の佐世保、福岡、広島、長崎などの空襲による被害状況を記録したアメリカ海兵隊非公式写真約50点を展示しました。

関連企画講演会がプラザホールで6月14日に開かれました。講師は、神奈川の学徒勤労動員を記録する会代表で、神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校教頭の笹谷幸司さんで、題は「神奈川の戦争と子供たち - 学徒勤労動員を知っていますか」でした。1935年頃から横浜や川崎の海岸部を中心に工業地帯ができていた神奈川県では、戦争の拡大にともない、さらに多くの軍需工場と軍の基地が建設されるようになりました。今の中学生や高校生に当たる年齢の多くの生徒たちが、県内はもとより関東以北から約2万人が学校を離れて工場に勤労動員されました。これらの工場や基地は、1944年の末頃からB29などアメリカ軍機による空襲にさらされ、被災、爆死した生徒が多数ありました。講演会では、学徒勤労動員が制度化された流れと、勤労動員の体験を持つ方がたの証言、ビデオ、写真映像を交えながら、「教育と戦争」「学校と戦争」という視点から、戦争の悲惨さを見つめるものでした。

関連企画講演会「戦争とわが人生」が明治大学名誉教授大塚初重さんを講師に、プラザホールで6月29日に開かれました。大塚さんは1926年東京に生まれました。海軍1等兵曹であった1945年3月10日の東京大空襲では、路上の遺体を収容する作業をしました。

続いて佐世保への勤務命令を受け、上海に向かう輸送船に乗船中撃沈されましたが、漂流中に韓国・濟州島の漁民に救出され、九死に一生を得ました。終戦後は、日本考古学の研究者として、登呂遺跡など多くの発掘を手掛けました。波乱の人生を次の世代に語り継ぎました。

関連企画として、6月21日によこはま文庫の会による「おはなし会」が企画展示室で、7月5日に女優の阿部壽美子さんによる「平和を語る会」がプラザホールで、それぞれ開かれました。いずれも、横浜ゆかりの児童文学者、長崎源之助さんの作品を通して、平和と生命の大切さを子どもたちに伝えていくものでした。

関連企画映画会「ヒロシマナガサキ」(監督：スティーヴン・オカザキ/2007年/アメリカ)の上映会がプラザホールで7月6日に開かれました。アカデミー賞ドキュメンタリー映画賞に輝いた作品で、広島、長崎への原爆投下から60余年を経た今、“原爆の被害に対する認識と関心を世界に呼び起こしたい”と、監督自身が日本で500以上の人に会い、取材を重ねたものです。14人の被爆者、原爆投下に関与した4人のアメリカ人の証言を軸に、貴重な記録映像や資料を交え、広島と長崎における原爆投下の真実に迫っています。被爆者の想像を絶する苦悩と真正面から向き合い、25年の歳月をかけて完成された渾身のドキュメンタリーです。

関連企画あーすぷらざ収蔵品写真展「横浜の空襲」が常設展示室内で6月7日～7月13日の会期により開催されました。アメリカ公文書館、スミソニアン航空宇宙博物館所蔵の横浜の空襲による被災状況やGHQの占領の様子を写した写真パネルを展示しています。

Tel:045-896-2121 Fax:045-896-2299

<http://www.k-i-a.or.jp/plaza/>

### 川崎市平和館：神奈川

「川崎大空襲戦災記録写真展」が1階「平和の広場」で2008年3月26日～5月6日の会期により開催されました。1945年4月15日、アメリカ軍機B29の来襲により、川崎は大空襲に見舞われました。戦争被害の悲惨さと、平和の尊さを伝える趣旨で開かれたもので、川崎大空襲記録写真パネル、戦時中や終戦時の行政資料などを展示していました。主催は川崎市平和館と川崎市公文書館です。

Tel: 044-433-0171

<http://www.city.kawasaki.jp/25/25heiwa/home/heiwa.htm>

### 静岡平和資料センター：静岡市

2008年6月13日から、新しい所に移転し、展示も広くなりました。移転オープン展示「静岡市民が遺し

た戦争資料展(第1部) 静岡・清水にも無差別空襲があった」が2008年11月23日までの会期で開催されています。市民が描いた空襲体験の原画、アメリカ軍撮影の写真、市民から提供された実物資料などを展示しています。新たに制作された映像で見る「静岡空襲」も会場で上映されています。

新しい住所は、〒420-0858 静岡市葵区伝馬町10-25 中央ビル 90 2F で、JR 静岡駅から徒歩10分、静岡鉄道 新静岡駅から徒歩5分の所です。

Tel & Fax: 054-271-9004

<http://homepage2.nifty.com/shizuoka-heiwa/>

### 沼津市明治史料館：静岡

「平和を考える戦争史跡めぐり」が2007年8月7日には中学生対象に、8月10日には親子対象に、それぞれ開催されました。東京都立戦時疎開学園で生活した方の体験談も現地で聞きました。8月7日には小学生歴史教室「戦時中のくらしを体験しよう」が開かれました。体験者の戦時体験談を聞き、すいとんをつくって食べました。

Tel: 055-923-3335 Fax: 055-925-3018

<http://www.city.numazu.shizuoka.jp/kurashi/sisetu/meiji/index.htm>

### 戦争と平和の資料館 ピースあいち：名古屋市

特別展「沖縄から戦争と平和を考える」が3階展示室で2008年4月29日～6月28日の会期により開催されました。展示構成は、1 沖縄戦の実相とその継承 2. 沖縄の戦後、今、そしてこれから・・・でした。

Tel & Fax: 052-602-4222

<http://www.peace-aichi.com/>

### 四日市市立博物館：三重

学習支援展示「四日市空襲と戦時下の暮らし」が2008年6月14日～8月31日の会期で開催されています。平和学習の支援を目的に、四日市が空襲に遭ったことや戦時中の暮らしのようすを実物資料や写真パネル・模型などで紹介するものです。

Tel: 059-355-2700 Fax: 059-355-2704

<http://www.city.yokkaichi.mie.jp/museum/>

### 立命館大学国際平和ミュージアム：京都市

特別展「ベトナム反戦ポスター展 - アーティストからのメッセージ」が1階中野記念ホールで、2008年4月16日～7月21日の会期により開催されています。反戦の思いを込めて画家やデザイナーが描いた「ベトナムの子どもを支援する会」の反戦野外展複製パネルを展示し、当時の野外展の息吹を紹介するとともに、

彼らのメッセージを見つめ直し、私たちに何が出来るのか考えてもらうために開催しているものです。2007年に「ちひろ美術館」で開催したものの巡回展です。

記念講演会第1弾「街頭でアートが叫んでいた」が2008年4月26日に開かれ、絵本作家の田島征三さんと名誉館長の安齋育郎さんが対談しました。記念講演会第2弾「反戦野外展の頃」が2008年5月17日に開かれ、絵本作家の西村繁男さんが講演しました。

ミニ企画展「陶器製地雷展 - 太平洋戦争末期の信楽焼」が常設展示室内のミニ企画展示室で2008年1月9日～30日の会期により開催されました。主催は立命館大学考古学コース歴史考古学ゼミです。太平洋戦争末期、日本の敗色も濃厚になった頃、各地の窯元も戦時体制のなかに組み込まれていきました。焼き物の生産地である信楽では、陶器製の地雷の容器を製造し、軍に納品しました。展示した資料は、滋賀県信楽町で採集された陶器製地雷薬匠と、埼玉県川越市の通称浅野カーリット工場跡周辺で収集された陶器製地雷薬匠でした。

Tel: 075-465-8151 Fax: 075-465-7899

<http://www.ritsumei.ac.jp>

### 舞鶴引揚記念館：京都・舞鶴市

第3回企画展「一般邦人の引揚」が企画展示室で2007年10月30日～2008年1月31日の会期により開催されました。これは、敗戦直後、多くの犠牲者を出した中国東北部(旧満州)からの民間人の引き揚げの実情について、写真や解説文などで紹介したもので、「特定非営利活動法人 舞鶴・引揚語りの会」の制作協力により、開かれたものです。

青少年義勇軍の募集ポスター(1938年発行)、軍事教練の様子、コーリヤンを収獲する満蒙開拓団の姿、敗戦直後の過酷な逃避行を伝える写真や絵画、引き揚げを体験した漫画家・ちばてつやさんが当時を思いだして描いた作品、小学生の女の子が引き上げる時に背負っていたリュックサックなども展示していました。

第1回企画展「絵画で観るシベリア抑留 - 佐藤清氏の絵画とその解説」が企画展示室で2008年5月1日～7月30日の会期により開催されています。引揚記念館所蔵の佐藤清さんの作品16点を展示し、シベリア抑留生活を描いた絵画とその背景を解説しています。制作協力は「特定非営利活動法人 舞鶴・引揚語りの会」です。

Tel: 0773-68-0836 Fax: 0773-68-0370

<http://www.maizuru-bunkajigyoudan.or.jp>

### 京都大学大学文書館：京都市

企画展「第三高等学校の歴史 - 昭和期を中心に」が京都大学百周年時計台記念館1階歴史展示室で2008年1月4日～3月2日の会期により開催されました。

勤労働員で学生が行っていた大阪の住友伸鋼に1945年7月24日の空襲で投下された爆弾の破片、学徒勤労働員二関係スル書類、宿直日誌、軍事教練の写真などを展示していました。戦没者、徴集者などについての学徒出陣の最新の調査研究成果も展示していました。

大学文書館は第三高等学校の「学徒出陣」の調査をおこない、1943年12月の一斉入隊時に在学者の20%にあたる69名が徴集され、1939年以降全体では175名が徴集されたことがわかりました。このうち7名が朝鮮出身者、2名が台湾出身者です。在学中の戦没者は5名が確認されました。この調査結果は西山伸著「第三高等学校における『学徒出陣』」（『京都大学大学文書館研究紀要』第6号、2008年1月31日刊）に収録されています。

Tel: 075-753-2651 Fax: 075-753-2025  
<http://kual.archives.kyoto-u.ac.jp/ja/>

### 大阪国際平和センター（ピースおおさか）：大阪市

特別展「写真と絵で見る大阪 - 戦前・戦後・そして今」が1階特別展示室で、2008年2月5日～6月8日の会期により開催されました。当初は4月13日までの会期でしたが、会期延長したものです。大阪は商工業の街として発展し、大正末期から昭和初期にかけては「大大阪」と呼ばれましたが、第2次世界大戦末期の度重なる空襲により街は焼け野原となりました。戦後、高度経済成長とともに、つぎつぎと新しいビルが建設され、街の風景も大きく変わりしました。同時に戦争を体験された方がたも次第に少なくなり、戦争の記憶が忘れ去られつつあります。今回は、戦前・戦後の大阪府内の街の様子がかがえる写真や絵と、同じ場所で撮影した現在の写真を並べて展示していました。この2つを見比べることにより、戦前・戦後の市民生活や空襲による被害の様子を知り、現在までの時代の移り変わりについて考える機会とすることが開催趣旨です。旧東区（大阪城周辺の軍需施設、終戦後の大阪城周辺）、旧南区（ミナミの繁華街、御堂筋周辺建物の空襲後の焼けあと）、天王寺区（新世界、通天閣、四天王寺、動物園）、堺市など大阪府内の写真・絵を約100点展示していました。

収蔵品展「寄贈品で見る戦争中の暮らし」が1階特別展示室で、2008年6月17日～9月14日の会期により開催されています。ピースおおさかは1991年に開館しましたが、前身である「大阪府平和祈念戦争資料室」当時から、戦争の悲惨さと平和の尊さを伝える貴重な資料を多数寄贈され、大切に保管するとともに、常設展示や特別展示で公開してきました。戦争を体験された方がたから当時の話を聞く機会も少なくなりつつある今日、これらの寄贈品は、当時の記憶や想いが詰まった「ものいわぬ証人」として戦争を伝えていく大切な資料です。今回は、これらの収蔵品を展示する

ことにより、戦争中の国内や戦地での暮らしについて紹介し、戦争について考える機会とすることが開催趣旨です。展示構成は、1. 戦争中の暮らし、2. 戦地でのようす、3. 空襲と備え、4. 戦争が終わってからの暮らしの4つです。1では、大日本国防婦人会タスキ・バッジ、戦時歌謡レコード、すごろく、紙芝居、学徒勤労働員腕章、回覧板（隣組）、ポスター、戦時中の雑誌を、2. では、軍服、軍靴、背囊（リックサック）、飯ごう、軍隊手帳、軍隊ラッパ、戦地からの手紙、軍隊生活絵はがきを、3. では、防空ずきん、防空電球、防空カバー、焼夷弾、伝単（ピラ）疎開先で書いた児童の絵、熱で変形した硬貨、卒業式の答辞（空襲のため中止された）、4. では、引揚証明書、シベリア抑留中に使用された食器類、パン焼器、終戦後の大阪を描いたスケッチ画を、それぞれ展示しています。

貸出パネル「大阪空襲の体験画」の紹介が1階講堂内展示コーナーで2008年5月17日～7月30日の会期により開催されています。ピースおおさかでは、学校での学習教材や地域での平和イベントにおけるパネル展として活用してもらうため、平和に関するパネルの貸出をおこなっています。このコーナーでは、貸出パネルの内容を紹介し、併せて平和の大切さについて考えるという趣旨からパネル展示をしています。今回、紹介する約20枚の「大阪空襲の体験画」は、1981年に大阪空襲の悲惨な事実を語り継ぐ市民団体が会員に呼びかけ、当時の状況を目の当たりにした方がたが、その記憶をもとに描き上げたものです。なお、展示しているパネルは、これら原画を写真パネルにしたもので、1945年6月1日の第2次大阪大空襲が中心です。戦後何十年も経ってからの記憶とは思えないほど、まなまなしい描写で、空襲の実態を伝えています。

ピースおおさか「ウィークエンド・シネマ」がピースおおさかで所蔵している戦争や平和についての映像資料を、広く多くの方が鑑賞する機会とするために、1階講堂で開かれました。

5月10日、11日、17日、18日は原作者奥田継夫さんの戦時体験をもとに展開されている物語で、親元を離れて生活する「学童疎開」という状況下で、子どもたちが食べ物に飢え、親や肉親の愛から遠ざかっている中で見たもの、体験したものは何だったのかを描いている「ボクちゃんの戦場」を上映しました。

5月24日、25日、6月1日は、「福岡空襲を記録する会」の空襲体験証言集「火の雨が降った」をもとにつくられたもので、700年余り続いてきた代表的な祭り「博多祇園山笠」が空襲によって途絶えた体験を重ね、改めて平和の尊さを訴えている「火の雨がふる」を上映しました。

「3.13 大阪大空襲平和祈念事業」として、講演会「女学生たちの戦争体験 - 戦争は絶対にくりかえしてはいけない」が2008年3月9日に1階の講堂で開かれ、旧制高等女学校の卒業生の方たちが大阪大空襲や学徒勤労働員の体験を報告しました。



第30回「21世紀の平和を考えるセミナー」映画会「バナナって紙になるの？ 貧困と環境を考える - 夢を信じ、未来に挑む人々を描いた映画『ミラクルバナナ』」が、2008年2月23日に1階の講堂で開催されました。

フィールドワーク「空襲と残された建物 - 御堂筋周辺を中心に」が2008年3月16日に四天王寺大学名誉教授の三島祐一さんと大阪歴史博物館学芸員の酒井一光さんの案内で開催されました。

『戦争と平和：大阪国際平和研究所紀要』'08 - Vol.17が2008年3月31日に刊行されました。小田康徳さんの「自治体史の編纂と戦争の記述 - 和歌山県旧粉河町の事例から」、石原佳子さんの「大阪の学徒動員 - 府立泉尾高女など高等女学校を中心に」、佐賀朝さんの「銃後奉公会体制の地域的実態 - 兵庫県武庫郡大庄村の史料紹介」、田中はるみさんの「1954年ハーグ条約と日本 - 文化財保護と軍事基地の相克」、佐々木和子さんの「空襲を伝えるために - ピースおおさか所蔵資料の活用をめぐって、神戸空襲の場合」などが掲載されています。

Tel:06-6947-7208 Fax:06-6943-6080  
<http://www.peace-osaka.or.jp/>

#### 大阪人権博物館(リパティおおさか)：大阪市

企画展「アイヌ工芸品展 アイヌからのメッセージ 2007 現在から未来へ」が特別展示室で2008年1月8日～3月9日の会期により開催されました。アイヌ文化は、近代以降のアイヌ民族を取り巻く社会環境が大きく変化した中でも、今日まで連綿と受け継がれてきました。その伝統の継承とともに、さまざまな取り組みにより、新たな文化が創造されてきています。こうした活動は、1997年の「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律」の制定により、より活発になっています。この工芸品展は、民族文化をどう紹介するかを民族自ら決定・構成したものです。現在、アイヌ文化の伝承・保存活動にいろいろなかたちで携わる人たちが製作した作品を展示・公開することにより、今現在のアイヌ文化の様相、さらには未来に向けての形を広く紹介するものでした。

記念シンポジウム「アイヌ民族が語る“和人” - アイヌ・モシリへの招待状」がリパティホールで2008年2月9日に開かれました。報告者は阿寒アイヌで、阿寒アイヌ工芸協同組合の秋辺日出男さん、旭川アイヌで、川村カ子トアイヌ記念館の川村シンリツ・エオリパック・アイヌさん、白老アイヌで、財団法人アイヌ民族博物館の村木美幸さんでした。体験講座「アイヌ文様の刺繍をつくろう - 自分の持ち物にワンポイント」が2008年1月27日に、体験講座「口琴楽器・ムックリをつくって、ならしてみよう」が3月2日に、3階の体験学習室でそれぞれ開かれました。

収蔵資料展「労働と貧困」がガイダンスルーム2で

2008年4月15日～6月22日の会期により開催されました。所蔵の1930年前後のプロレタリアートの運動資料、戦後の労働関係資料から労働者の主張、働く人の権利を学び、現代の広がる貧困の背景にある労働問題と社会保障について考えようとするものです。「日本ゼネラルモーターズ糾弾大演説会」・「戦旗防衛講演会」・「プロレタリア美術展」・「プロレタリア映画の夕べ」・「プロレタリア演芸大会」などやメーデーのポスター、『女工哀史』・『戦旗』・『プロレタリア文学』・『ナツプ』・『働く婦人』など本や雑誌が展示されました。

関連企画として、映画「蟹工船」の上映会がリパティホールで2008年6月8日に開かれました。

Tel: 06-6561-5891 Fax:06-6561-5995

<http://www.liberty.or.jp/>

#### 堺市立平和と人権資料館(フェニックス・ミュージアム)：大阪

企画展「国際貢献の現場から - 『国境なき医師団』ポスター展」が2008年4月2日～6月29日の会期で開催されました。これは、「国境なき医師団」の飢餓・感染症・自然災害などへの活動を通して、世界でどんなことが起こっているのかを知らせ、「平和の尊さ」「いのちの大切さ」を訴えるものでした。

Tel:072-270-8150 Fax:072-270-8159

<http://www.city.sakai.osaka.jp/city/info/jinken/>

#### 吹田市平和祈念資料室：大阪

平和映画会が毎月開催されています。

2008年4月は12日、13日、26日、27日に第2次世界大戦で両親を失った12歳の少年の悲劇を、映画の詩人と呼ばれるタルコフスキーが叙情詩的に描いたソ連映画「僕の村は戦場だった」が、5月は10日、11日、24日、25日に第1次世界大戦中に活躍した実在の女スパイ“マタ・ハリ”の物語アメリカ映画「マタ・ハリ」が、6月は14日、15日、28日、29日に第2次世界大戦末期のドイツのある村で7人の少年が召集され、大人たちの配慮で彼らは前線から遠い村はずれの「橋」を守る任務につきましたが、彼らが巻き込まれた悲惨な状況を描いた西ドイツ映画「橋」が、それぞれ上映されました。

Tel:06-6387-2593

<http://www.city.suita.osaka.jp/kobo/jinken/page/000338.shtml>

#### 姫路市平和資料館：兵庫

収蔵品展「戦時下を語る資料たち」が2階展示室で2008年1月16日～3月23日の会期により開催されました。市内外の方がたから寄贈された資料の中から、戦時下の国内生活などについて、いくつかのテーマに

分け展示したものです。当時の国民生活に思いをはせながら、そこに多くの尊い犠牲があったことと、現代日本の平和の尊さとを考える機会の一助になることを願って開催したものです。戦時下の庶民の暮らしでは、国民服、代用品(陶器スプーンなど)を展示し、当時の庶民の暮らしぶりを紹介し、戦時を映す文化では、当時の雑誌・紙芝居・ポスターを展示し、戦時色が色濃く反映されていた状況を紹介し、出征兵士を送るでは、入営祝幟、臨時召集令状を展示し、出征の模様などを紹介し、戦地に送られた兵士たちでは、飯盒・水筒・奉公袋を展示し、戦地での生活の一端を紹介し、資料が語る姫路空襲では館所蔵の姫路空襲関連の資料を展示し、戦中から戦後へでは、衣料切符・罹災証明書を展示し、終戦前後の状況を紹介することが、主な内容です。

関連して2月17日に「戦争体験談」が開催され、神頭敬之介さんが話しました。

春季企画展「絵で見る学童疎開」が2階展示室で2008年4月11日～7月6日の会期により開催されました。太平洋戦争下、都市への空襲に備えて国民学校(小学校)の児童を守るという名目で地方への集団疎開がおこなわれました。その結果多くの子どもたちが家族と引き離され、寂しさと空腹のなか、苦しい生活を強いられることになりました。この企画展では、『うちに帰りたい! 絵で見る学童疎開』(全国疎開学童連絡協議会編、小島義一絵、クリエイティブ21刊、2007年1月)の原画50点を中心に、全国疎開学童連絡協議会提供の関連資料、写真パネルなどの展示を通して、当時の疎開学童と同年代の子どもたちに学童疎開の実態を伝え、「戦争」と「平和」について考える機会とするものです。構成は1.疎開が始まった 初めは遠足気分、2.疎開先での一日、3.日がたつにつれて……、4.沖縄の学童疎開、5.ますます広がる戦争の被害、6.八王子の空襲、7.終戦 で、『うちに帰りたい! - 絵で見る学童疎開』の目次にもとづいています。

関連して、BGM、効果音を用いた臨場感あふれる朗読会が5月5日に開かれ、女優の駒田真紀さんが朗読しました。6月22日には、空襲体験談を語る会が開かれ、田路信一さんが「姫路空襲を語る」と題して話しました。

Tel:0792-91-2525 Fax:0792-91-2526

<http://www.city.himeji.hyogo.jp/heiwasiryoy/>

#### 奈良県立図書情報館：奈良市

戦争体験文庫企画展示「戦争と手紙2 戦地からの手紙」が2008年1月5日～3月27日の会期で、「戦争と手紙3 戦地への手紙」が3月29日～6月26日の会期で開催されました。

Tel:0742-34-2111 Fax:0742-34-2777

<http://www.library.pref.nara.jp/sentai/gallery.html>

#### 広島平和記念資料館：広島市

2007年度第2回企画展「菊池俊吉写真展 昭和20年秋・昭和22年夏」が東館地下1階で2008年2月14日～7月15日の会期で開催されました。展示構成は、はじめに・プロローグ、2か月後と2年後の広島、昭和20年秋(・原子爆弾の爪跡・赤十字旗の下で・復興のきざし)、昭和22年夏(・広島との再会・街と暮らしの復興・経済と産業の復興・本通り商店街の再建)、菊池俊吉氏の面影、エピローグ・おわりに です。図録を刊行しています。

Tel:082-241-4004 Fax:082-542-7941

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/>

#### 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館：広島市

企画展「しまっぺはいけない記憶 - 水を求められて」が地下1階情報展示コーナーで2008年4月1日～2009年3月31日の会期により開催されています。被爆者から水を求められた時の様子が書かれた体験記を中心に紹介しています。

Tel:082-543-6271 Fax:082-543-6273

<http://www.hiro-tsuitokinenkan.go.jp/>

#### 福山市人権平和資料館：広島

企画展「多文化共生 知って、気づいて、つながって」が2008年1月15日～3月16日の会期で開催されました。福山には、6000人を超える外国人が暮らしています。こうした人たちとともに安心して生活できる地域づくりが、いま求められています。「言葉・習慣などの違い」を知り、相互理解を深めるために開かれたものです。

企画展「児童労働にレッドカード - 子どもの人権」が2008年4月23日～6月29日の会期で開催されました。日本の子どもたちが、当然のように享受している権利が、世界のどこの国でも保障されているとは限りません。その最たるものが児童労働です。また、「子どもの人権」として、いま深刻な状況にある「いじめ」・「児童虐待」の問題について、考えるために開かれたものです。

Tel:084-924-6789 Fax:084-924-6850

<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/jinkenheiwa-shiryokan/>

#### ホロコースト記念館：広島・福山市

2007年10月に、新しく記念館が建てられ移転しました。当時の子どもたちの姿を通してホロコーストの真実を学ぶようになっています。ガス室に消えた子どもの靴、強制収容所での服、収容所の灰と遺骨、アンネの日記のレプリカなどを展示しています。アンネの隠れ家を再現し、アンネのバラ園とアンネの銅像もあ



ります。

住所：〒720-0004 広島県福山市御幸町中津原 815  
Tel&Fax：084-955-8001  
<http://www.urban.ne.jp/home/hecjpn/>

#### 高松市市民文化センター平和記念室：香川

収蔵品コーナーで2008年2月1日～5月31日の会期で、硫黄島の戦いに関する収蔵品の展示がおこなわれました。続いて、6月1日～8月31日の会期で、代用品特集がおこなわれています。

高松空襲写真展が高松市市民文化センター1階ロビーで、2008年6月28日～7月13日の会期により開催され、高松空襲直後の被災写真・パネル・絵画を展示しています。

Tel:087-833-7722 Fax:087-861-7724

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/1794.html>

#### 鳴門市ドイツ館：徳島

2008年3月14日に徳島県と友好提携しているドイツ・ニーダーザクセン州のローター・ハーゲベリング首相府長官が来館しました。板東俘虜収容所でのドイツ兵の様子やその後も続いたドイツと鳴門の人たちとの交流に感動していました。前日夜には、歓迎会も開かれ、ドイツ館職員も参加し交流を深めました。長官は、家族的な歓迎会に楽しそうでした。

<http://www.doitsukan.com/doitsukan.htm>

#### 福岡市博物館：福岡

「戦争とわたしたちの暮らし17」が常設展の中の部門別展示室3(美術・工芸展示室)で2008年5月20日～7月13日の会期により開催されました。1945年6月19日深夜から翌20日未明、福岡はB-29の大編隊から投下された焼夷弾による爆撃を受けました。この空襲により、博多部など福岡市の中心部が焼け野原となりました。福岡市博物館では、この「福岡大空襲の日」の前後に、「戦争とわたしたちの暮らし」展を開催してきました。今回は、出征した人が故郷へと送った便り、「銃後」の人びとが出征した人たちへと送った便りなどを中心に展示をしています。家族や親戚、友人などの個人あての便りはもちろん、「出征した人たち」にあてた「銃後」からの便りもあります。戦地の兵士と国内にいるその近親者との間を結んだ「軍事郵便」という制度もありました。郵便事情も悪くなっていた戦時に、遠く離れた人を気遣ってかわされたであろう便りを読み、あらためて「戦争と平和」について考えるきっかけにする趣旨で開いたものです。解説リーフレットを刊行しています。

Tel:092-845-5011 Fax:092-845-5019

<http://museum.city.fukuoka.jp/>

#### 長崎原爆資料館：長崎市

「原爆資料館収蔵資料展」が企画展示室で2007年11月22日～2008年1月15日の会期により開催されました。

企画展「山頭範之写真展 イラク・アフガンダイアリーズ」が企画展示室で、2008年4月25日～7月14日の会期により開催されました。長崎県出身の写真家山頭範之氏が戦火のイラクやアフガニスタンで暮らす人びとの姿を撮影した写真を展示するものです

Tel:095-844-1231 Fax:095-846-5170

<http://www1.city.nagasaki.nagasaki.jp/na-bomb/museum/>

#### ナガサキピースミュージアム：長崎市

企画展示「詩人 福田須磨子"愛と闘いの人生"展」が2008年3月4日～23日の会期で開催されました。福田須磨子は長崎原爆で両親や長姉を奪われ自らも被爆した詩人です。生活苦や原爆病の不安に晒されながらも人間らしく生きようとする彼女の闘いは、3つの詩集や多くのエッセイ・記録を生み残しました。今回は大阪在住の次姉から寄贈された遺品から原稿下書きや書籍・写真・生活の糧とした手製人形など約50点を展示していました。

Tel:095-818-4247 Fax:095-827-7878

<http://www.nagasakiips.com/old/index.html>

#### 沖縄県平和祈念資料館：糸満市

子ども・プロセス企画展「子どもたちと沖縄戦 - 絵本『オジイの海』」が2008年6月1日～30日の会期で開催されました。

Tel:098-997-3844 Fax:098-997-3947

<http://www.peace-museum.pref.okinawa.jp>

#### 対馬丸記念館：沖縄・那覇市

第9回特別展「世界の平和児童画展 - 対馬丸学童に捧ぐ」が1階の企画展示室で2007年12月15日～2008年1月9日の会期により開催されました。

Tel:098-941-3515 Fax:098-863-3683

<http://www.tsushimamaru.or.jp/>

\*\*\*\*\*

#### 山梨平和ミュージアム開館1周年を迎えて

山梨平和ミュージアム理事長 浅川 保

昨年5月、「伝えたい戦争の記憶・記録を」というたくさんの思いが結集して、山梨県甲府市にオープン

した山梨平和ミュ - ジアム - 石橋湛山記念館 - (略称 Y P M )が6月22日、開館1周年記念行事を開催しました。

当日は、京都から安齋育郎氏(立命館国際平和ミュ - ジアム名誉館長)を記念講演の講師に迎えて、甲府市の Y P M の西隣のぴゅあ総合でおこなわれ、110名が参加し、盛況裡に終わりました。安齋氏は、「地域から平和の創造を - 世界の平和博物館運動をリードし、平和的国際貢献を - 」と題して講演、「平和」とは、「平和博物館」とは何か、から始まって、豊富な学識と体験、さらにマジックも駆使して「日本と世界の平和博物館運動の現状と将来」に言及、10月に京都でおこなわれる「第6回国際平和博物館会議においてやす」で締めくくり、参加者の大きな拍手を受けました。

続いておこなわれた賛助会員総会で小生が、この1年間の活動を報告、中・高・大学生など若者の見学者の増加を図る・NPO法人化などの方針を提案し了承され、次いで春日正伸館長など新役員を承認、役員ひとり一人が抱負を述べて終わりました。

総会で報告された開館1年をふり返っての活動の特徴と今後の課題は下記の通りです。

#### 活動の概要・特徴として

見学者は、県内外から訪れ、2100名を超えた。

開館記念展示として、「甲府空襲の実相」、2007年11月から企画展「甲府連隊の軌跡」、2008年6月から1周年記念企画展として「戦時下の暮らし」を展示、開館1年で、甲府空襲・甲府連隊・戦時下の暮らしと、基本的な展示がほぼそろった。

戦争体験者らを講師に、証言を聞く会、講演会など毎月1回実施、「平和の港」としての役割を果たした。

開館記念シンポジウムとして「いま、石橋湛山に学ぶもの」を開催するなど、全国唯一の石橋湛山記念館としての役割を果たした。

実物資料50点以上、書籍1000冊以上、ビデオ100本以上の提供があり、「私の展示コーナー」などに、適宜紹介・展示している。

会報「平和の港」を4号発行、活動報告・企画案内・交流につとめた。

#### 今後の課題としては

「・高・大学生など若者の見学者をどう広げるか。

東京大空襲・戦災資料センター、ピ - スあいちなど他の平和ミュ - ジアムとの交流・提携をどう広げるか、などがある。その手ははじめとして、10月に京都で開かれる第6回国際平和博物館会議にできるだけ多数で参加したい。

なお、Y P M 1周年に対するマスメディアの関心も高く、6月16日の山梨日日新聞文化欄のトップに、「山梨平和ミュ - ジアム1周年にあたって」の小生の依頼原稿が写真入りで掲載されたのをはじめ、毎日新聞、山梨新報、NHK、UTY等でも取り上げられました。

## アクティブ・ミュージアム「わたちの戦争と平和資料館」(略称 wam)

### いよいよ中国展がスタート

wam 運営委員長 池田恵理子

wam では6月7日から第6回特別展「ある日、日本軍がやってきた～中国・戦場での強かんと慰安所～」を開催しています(2009年5月24日まで)。日本が中国を侵略した15年戦争で、日本軍の性暴力にさらされた女性たちは膨大な数にのぼりますが、その詳細と全貌が明らかになってきたのは、1990年代以降、被害女性たちが日本政府を相手に裁判を始めてからでした。抗日勢力が強かった山西省孟県では多くの村で虐殺事件が起こり、女性たちは「強かん所」に監禁・輪かんされました。大量虐殺と集団強かんが繰り返された南京では、中国と日本で被害女性や目撃者、元日本兵への聞き取りが進められ、具体的な惨状がわかってきました。日本軍の南方侵略の拠点であり、豊かな資源の供給基地だった海南島に作られた慰安所は、わかっているだけでも64か所。そこで被害を受けた女性たちが裁判を起こし、新たな事実がつつぎと明らかになっています。どこの地域でも、被害女性たちは心身に深い傷を負い、苦難に満ちた戦後を生きなければなりませんでした。

今回の特別展ではこれら3地域で被害者の支援や聞き取り調査を進めてきた4団体(山西省・明らかにする会、中国人「慰安婦」裁判を支援する会、南京大虐殺60周年大阪実行委員会、ハイナンNET)がプロジェクト・チームに参加して資料を収集・整理し、パネル作成をおこないました。どのパネルにも制作者たちの渾身の思いと、蓄積された記録が厳選されて盛り込まれています。中国での日本軍の加害と性暴力被害の凄まじい実態と、そこから生還して闘い続けてきた女性たちの勇気と人生が浮かび上がってきます。ショーケースには彼女たちの手作りの刺繍の中敷きや紙細工、借りてきた纏足の小さな靴などを展示しました。東京へ来られた時には、是非、お立ち寄りください。

オープニングには山西省から、被害当事者の万愛花さんと遺族の楊秀蓮さんを招き、証言集会を開きました。15歳で村の抗日副村長となり、3度にわたる性拷問を受けて奇跡的に生還した万愛花さんは、120人余りの満員の聴衆に向かって「日本は変わるんですか、変わらないんですか？」と厳しく問いかけました。楊秀蓮さんは日本軍の隊長専属にされて、戦後は「親日派」と批判され自死した養母・南二僕さんの悲劇の生涯を泣きながら訴えました。日本政府は被害者が亡くなれば戦争責任問題は片づき、忘れられるものだと高を括っているでしょうが、決してそうではないことが痛いほどわかった瞬間でした。

この中国展では初の試みとして、この秋、中国の山西省武郷にある八路軍記念館でwamのパネル展の同時開催を予定しています。形式もサイズも違う中国

語版のパネルを 70 枚あまり作るのは、大変な時間と労力、経費のかかる大事業です。これも多くの方がたの支援と募金をいただいて現在、最終の追い込み作業に入っています。今年は wam 創設以来の夢だったデータベースの構築が完成間近です。最新情報を入れた正確で詳細な慰安所マップの作成にも取り組んでいます。ご期待ください。

## 都立第五福竜丸展示館

### 原爆詩朗読を続ける吉永小百合さんも来館

第五福竜丸展示館学芸員 安田和也

第五福竜丸は船齢 61 年、今年は保存のよびかけから 40 年のメモリアルです。

9 月 23 日の無線長久保山愛吉さんの命日より企画展「原爆ドームと第五福竜丸 市民が守った平和遺産」を開催します（12 月中旬まで）。第五福竜丸は被ばく後、水産大学の練習船「はやぶさ丸」として使われ 1967 年に廃船となり、夢の島（都のゴミ処分場）のゴミの海面に放置されました。第五福竜丸（はやぶさ丸）が沈められようとしている、との報道から 1968 年 3 月保存の声がおこります。全国で市民や原水爆禁止の運動が保存にとりくみ、約 10 年ののち、東京都による夢の島公園造成とあわせて展示館が建てられました。

原爆ドームも 1965～66 年の倒壊の危機に際して全国の募金により保存工事がおこなわれています。いまは世界遺産として著名な原爆ドームも第五福竜丸も市民の原水爆反対、平和への願いと取り組みで残されたのです。本展では、この経緯と市民の声、保存の取り組みの現物資料などを広島市の協力を得て展示します。

いま、第五福竜丸展示館では特別展「男鹿和雄が描くヒロシマ・ナガサキ・オキナワ・ウミガメと少年 第五福竜丸と海へ」が開かれています。これは吉永小百合さんの原爆詩朗読の CD に挿絵を頼まれた男鹿和雄さんの作品の 39 点からなります。「ウミガメと少年」は野坂昭如さん作の戦争童話集で、当館では沖縄戦を知るミニコーナーを設け、ガマ（沖縄南部の洞窟）から発掘された現物資料数点も展示。



6 月 23 日のオープニング記念会には画家の男鹿さんはじめ吉永小百合さんも参加し「第五福竜丸が原爆詩朗読の原点、こどもたちにたくさん見てほしい」とあいさつしました（写真）。

## 平和資料館「草の家」：高知

事務局長 安藤眞菜

夏に高知市でおこなわれている平和行事を「ピースウエイブ」という平和の波にまとめ「草の家」が事務局を務めています。ピースウエイブ 2008 in 高知では「第 30 回 戦争と平和を考える資料展」「第 26 回平和七夕まつり」、「第 25 回平和映画祭」、「第 25 回反核平和コンサート」、「第 25 回平和美術展」「第 14 回アジアの人々が連帯する集い」など 13 の行事をおこないます。これらの行事が高知市、高知市教育委員会、高知新聞社、NHK など 11 団体の後援を受けておこなわれます。

草の家が企画している「第 30 回戦争と平和を考える資料展（入場無料）」は高知空襲展、沙飛の日中戦争写真展、チェルノブイリの子どもの絵画展、今日の自衛隊、新しく見つかった戦争遺跡の発表等で構成しました。焼夷弾の実物大を手作りしその大きさや迫力を感じてもらいました。又、東京や福井の平和資料館より、焼夷弾の落ちてくる映像をリアルに再現したグラフィックの DVD や 1 m×2 m ほどある大きな空襲時の状況を描いた絵画などを貸していただき、当時の状況を市民のみなさんにより理解してもらえたと思います。期間中は、親子連れの方や学校の授業の一環としてくる学生さん、500 名を超える市民の方が来られ、足下から平和学習を出来る場として活用してもらえました。同時開催で、高知の戦争抵抗者である横村浩の生涯を描いた「人間の骨」の映画上映もおこないました。

平和七夕まつりでは、小中学校の生徒さんや生協の会員さん、多くの市民が参加して作った、平和の思いを込めた 100 万羽の折り鶴が高知市中心部の商店街に今年も色とりどりに飾られています。

草の家では平和講座と文化講座を 1 か月に 1 度、開催しています。「地元産業の発展と若者の就労」や「土佐の暮らしの文化」「フランスにおける核実験の歴史と現状」等、さまざまな角度からおこなっています。

5 月は、立命館平和ミュージアムで研究員をされているパキスタン人のシカンダーさんが来館され、パキスタンの状況や、平和博物館建設への思い等、貴重なお話を聞く事ができました。同時期に、北海道大学の教育学部生が草の家を研修に来られ新しい風を吹かしてくれました。7、8 月は各学校で平和集会がおこなわれるので、語り部活動や資料貸し出し作業が大忙しです。

「草の家」は、平和資料館として、市民活動のサポ



ートセンターとして、人びとの憩いの場として等、多様に利用されています。来年で創立20年。草の根の平和活動が今後も広がっていくよう、みんなでがんばっています。

## 岡まさはる記念長崎平和資料館

理事長 高實康稔

近況と直近の活動計画をお知らせします。

(1) 6月14日、第40回ビデオ上映会。今回は本年1月に他界された高岩仁監督を追悼する上映会とし、同監督作品「戦争案内」を観ました。一昨年6月のフィルム上映会で「教えられなかった戦争」を上映するとともに講演もしていただきましたので、戦争を引き起こす経済的勢力の解明と告発に取り組みられた同監督の早世を惜しむ声に包まれました。終生、反戦・反差別のために闘われた生き方も、活動の手本として参加者一同に強い感銘を与えました。

(2) 6月29日、ドイツの良心的兵役拒否者として昨年9月から当資料館で代替勤務をしているロマン・バラバス(Roman Barabas)さんの講演会をおこないました。彼の勤務を経済的に支えている市民を中心に約40名が集いました。日本に来て一番驚いたのは「自国の加害の歴史を教えていないこと」で、ドイツでは考えられない異常なことと語り、結果として若者が憲法9条の改悪に無頓着なのは再び戦争をする危険につながると強調しました。なお、彼は8月に帰国しますが、9月には次の良心的兵役拒否者を受け入れます。そのドイツ青年もすでに決定しています。

(3) 7月21日、「岡正治さんに学ぶ会」。今回は新聞記者の石田謙二さんが「岡さんと私」と題して話してくださいませ。岡先生の思い出とマスコミに対する厳しい態度に触れながら、市民運動や平和運動とマスコミとの関係のあり方を双方の観点から論じて、現代ジャーナリズム論としても有意義な問題提起がいただけるものと期待されています。

(4) 8月12日~18日、第6回「日中友好・希望の翼」として大学生3名を派遣。今回も関西の「銘心会南京」と合流して、上海と南京を訪ねますが、学生募集2名に対して3名の応募があり、昨年は1名でしたので嬉しい反面、選抜が避けられないという苦悩に直面していたところ、「1名分は一般参加者費用の全額を負担してよい」という篤志家が現れ、3名とも派遣することができるようになりました。もとより3名ともしっかりした応募動機を綴っていますし、本来1名でも多く派遣したい当資料館の願いが叶い、これほど嬉しいことはありません。

\*\*\*\*\*

## 海外のニュース

### 平和と非暴力のための博物館：オランダ

1995年約10の平和団体が反戦博物館を始めました。1998年以降は、平和と非暴力のための博物館と名前を変えました。事務所はアムステルダムとデルフトにあります。私たちは博物館、図書館、学校などで展示をしています。約600人の支持者がいます。ボランティアが支えています。1年前からアルバイトをする人が働いています。半年毎に「平和のポート」という雑誌を出しています。博物館の店では、競争ではなく協力を促進するようなゲームを売っています。

<http://www.vredesmuseum.nl>

Museum for Peace and Nonviolence

Minahassastraat 1

1094 RS Amsterdam

[vredesmuseum@tiscali.nl](mailto:vredesmuseum@tiscali.nl)

(Hein van der Kroon より)

### インドの平和博物館：「平和の庭」(CMS : City Montessori School)

ここは中心街から離れ緑に囲まれ、入り口には平和の組絵があります。この博物館は「スリランカのガンジー」と呼ばれているA.T.Ariyaratne博士(マグサイサイ賞受賞)が2004年12月10日の世界人権デーに開館しました。

博物館内は以下の3部門に分かれています。

#### 1. 平和音楽部門

ここは、いつも霊(魂)に満ちた音楽にあふれ、時にはシタール演奏があり、私たちの心をやすらかにして瞑想へと誘ってくれます。平和や協調の歌について広範囲なカセットがあり、教師や生徒にこれらの歌を教える毎年「精神教育会議」の場で発表されます。

#### 2. 平和資料部門

ここでは、学生が書いた平和、世界連邦、世界言語などに関する評論、エッセイをじっくり読むことが出来ます。西園寺まさみ、ガンジー、ネルーの著作なども所蔵され政府の月刊誌、年鑑も保管されています。

#### 3. 平和芸術部門

政府は、定期的に平和ポスター・平和絵画コンテストをおこない、出品作品はここで展示されます。又、子どもたちの人間的成長を助ける映画のコレクションもあります。そして、子どもたちはコラージュ製作、ダンス、音楽、そしてヨガなども学ぶことができます。

HEAD OFFICE: JAI JAGAT HOUSE

Address 12 Station Road, Lucknow

Telephones 2638738, 2638606, 2638483, 2637655,

2637691, 2637658  
Fax 2638008, 2635497  
E-mail [info@cmseducation.org](mailto:info@cmseducation.org)  
Website [www.cmseducation.org](http://www.cmseducation.org)

(安藤 眞 訳)

### 教育センター設立予定：アメリカ

ワシントンDCのアメリカ国立平和研究所（1984年設立）に平和博物館のような教育センターが建設されます。それは国際紛争と平和構築の研究センターかつ国際平和構築の重要性についての教育機関になるでしょう。そこには会議場、展示室として使うことができる部屋ができる予定です。2010年には建設が完了する予定です、費用の半分は国から、後の半分は民間から出す予定です。詳細は次のウェブサイトで見ることができます。

<http://www.usip.org/building/>

### 原爆に反対する芸術：ART AGAINST THE BOMB

戦争に反対する芸術家が、インターネットを使って抵抗の芸術展をしています。2008年7月1日～8月31日には、1950年代から今日までの原爆に反対するポスター及び芸術作品、核兵器に反対する声明文の展示をする予定です。次のウェブサイトで見ることができます。

<http://www.artcriesout.com/homepage.html>

### 博物館会議：クロアチア

2008年9月25-27日に博物館関係者が集まって会議をします。プログラムは次のウェブサイトで見ることができます。

<http://www.thebestinheritage.com/event/programme.php>

### パソス平和博物館：ニューヨーク

パソスは教育と芸術を通して平和構築を促進するために創られたNPO組織です。そこでは平和構築に関するゼミ、ワークショップ、研究、討論、実践をしていきます。まだできたばかりのウェブサイトは次の通りです。

<http://www.pasospeacemuseum.org>

### 原爆博物館（英語）：

[AtomicBombMuseum.org](http://AtomicBombMuseum.org)

世界の若者や市民が原爆の実相や核兵器について知ることができるように、ウェブサイトでは情報を入手

できるようにしています。海外の方、日本在住の外国人にお勧めです。Dr. Ray Wilson が教えて下さいました。ありがとうございました。

[http://www.atomicbombmuseum.org/b\\_contributors.shtml](http://www.atomicbombmuseum.org/b_contributors.shtml)

### アルバニアにおける夏の取り組み

アルバニア北部のThethi National Parkという国立公園のある学校で、バルカンにおける平和構築と環境保護のためのサマースクールを開く予定です。対象は若者、特にコソボの若者、そして市民です。バルカン地方は共通言語がないため、英語教育を通して相互の意思疎通を図ることができるようにする予定です。非常に美しい所ですが、教育施設や仕事がなく、若者は都会に出て人口の減少が大きな問題です。大人を対象にしていかに地域を活性化するかについて話し合う場を提供する予定です。

### 国際平和環境教育協会：ニューヨーク

1992年に国際平和環境教育協会が創設され、環境教育と平和教育を推進する教育者の国際的ネットワークとして情報を発信しています。Transitions という通信が年2回発行されています。そこでは教育的な取り組み、社会的活動、新しい教育関係資料、出版物、世界各地から送られてくる記事が載っています。詳細は下記のウェブサイトを御覧下さい。（英文です）

<http://www.globalepe.org/resources.html>

### ニュージウム：アメリカ

4月にニュージウムという新しい博物館が、首都ワシントンに開館しました。新聞記事や写真、映像を通してメディアに関する知識の普及を目指しています。どのようにしてまたなぜニュースが作られるのかわかるような取り組みがなされています。次のウェブサイトで見ることができます。

<http://www.newseum.org/>

### 良心的歴史的博物館国際協会：International coalition of Historic Site Museums of Conscience

過去において良心に基づき、正義のために闘った歴史的な場所を国際的ネットワークでつないだのが、良心的歴史博物館国際協会です。1999年に創設されましたが、詳しくは下記のウェブサイトで見ることができます。

<http://www.sitesofconscience.org>

## 良心的徴兵忌避者の追悼：ロンドン

ピースプレッジユニオン：ビル・ヘザリングトン (Bill Hetherington)

ロンドンにあるタヴィストック広場には、被爆者に捧げられた桜の木、ガンジーの彫像がありますが、そこには良心的徴兵忌避者の石碑があります。

1916年第一次世界大戦中ジョー・ブレット (Joe Brett) に召集令状が来たとき、彼は人を殺したくないために戦うことを拒否しました。そのため逮捕され、1918年まで牢獄でひどい扱いを受けました。彼は1976年に亡くなりましたが、彼の姪であるエドナ・マシーソン (Edna Mathieson) は、彼のことを後世に伝えるために何かできないかを考えました。その後彼女は平和団体であるピースプレッジユニオン (Peace Pledge Union : P P U) を創設しました。これは第二次世界大戦における良心的徴兵忌避者を支えることになりました。これは戦争抵抗者の国際組織 (War Resisters International) と提携しています。その後 P P U では第一次世界大戦中の良心的徴兵忌避者 70 人を記念した木製の記念碑を作りました。しかしイギリスだけでなく、世界の良心的徴兵忌避者に捧げる石碑を作ることになり、そこには「あらゆる時代の世界中の男性と女性の良心的徴兵忌避者へ」と刻まれました。

国際良心的徴兵忌避者日である 1994 年 5 月 15 日に作曲家であるマイケル・ティペット氏がガーディアン紙に殺すことを拒否する権利を持っているすべての人びとに訴え、石碑の除幕式をおこないました。彼も第二次世界大戦中、良心的徴兵忌避者のため投獄されました。

その後エドナさんの呼びかけで、国際良心的徴兵忌避者日である 5 月 15 日に、石碑を前に記念集会を開催するようになりました。多くの国の良心的徴兵忌避者を 1 人選び、白いカーネーションを捧げるようになりました。例えば 1943 年にベルリンで打ち首にされたフランツ・イエガーシュッターなどの苦しみも紹介されました。ヨーロッパでは徴兵制がある国は減っていますが、良心的徴兵忌避の権利はまだ認められていないので闘いが続けられています。

ウェールズの首都であるカーディフでも良心的徴兵忌避者の石碑が作られ、今後オックスフォードでも作られる予定です。他の国や街でも、同じような石碑が作られることを願っています。

## 良心的徴兵忌避者を記念した最初(?)の石碑の歴史

ロンドン大学非常勤講師 エドナ・マシーソン (Edna Mathieson)

第 1 次世界大戦までどこの国でも、徴兵を拒否する権利はかろうじて認められてきました。アメリカでは

1917 年にその権利を認める法律を制定しました。1980 年代以降世界で良心的徴兵忌避者の数は毎年増えています。

私のおじのジョセフ・ブレットも 1300 人の戦争廃止者の 1 人でした。おじは 1916 年に投獄され、彼の家族は友人達から虐待され、無視されました。1919 年に出所しても仕事に就けませんでした。そのため家族を離れて収容所で労働をし、1 人の子どもは栄養失調で病院に入院しました。おじの死後良心的徴兵忌避者の記念碑を建てるためにさまざまな所に働きかけましたが支持されませんでした。ピースプレッジユニオンが支持してくれました。

新聞社に働きかけると、マンチェスターガーディアン紙が記事を掲載し、読者に募金をお願いしました。それで 1994 年に第 1 次世界大戦の良心的徴兵忌避者であるマイケル・ティペット氏が石碑の除幕式に参加した次第です。石碑には「彼らの勇気と洞察力は、私達に希望を与えてくれます」と書かれています。

1997 年から 5 月 15 日に石碑の所で儀式をしています。11 月 11 日には戦争で戦った人びとを思い出して儀式がおこなわれますが、戦争で戦うことを拒否した人びとのための儀式を提案したのです。

2003 年にはカーディフで記念碑が作られましたが、イギリスだけでなく他の国ぐにでもできると良いと考えています。

Edna Mathieson:

edna.mathieson1@btinternet.com

## 考えを変えたフランスのボラディエ軍司令官

現代史研究所

トラモー・クエメネウル博士 (Tramor Quemeneur)

ボラディエ軍司令官は、20 世紀フランスの偉大な軍人でしたが、フランスの植民地戦争、特にアルジェリア戦争で彼は非暴力主義的指導者になりました。

ボラディエ (Jacques Pâris de Bollardière) は 1908 年伝統的な貴族の家に生まれました。当時男性はみんな兵士になり、1930 年に士官になり 1940 年に初めて戦いました。彼はナチに対してドゴール将軍が率いる軍と共に戦いました。抵抗運動にも参加し、フランスで最初の落下傘兵となりました。戦争が終結すると彼は大変有名になりましたが、軍隊生活がいやになり、軍隊を辞める決心をしました。しかし元兵士たちに依頼されて、インドシナへ行きました。彼は虐待に対しては罰すると強調しましたが、彼の信念を貫くことができませんでした。1953 年にフランスに帰ると、彼はインドシナにおけるフランスの未来について幻想をいだきませんでした。フランスは一年後に敗北しました



1954年アルジェリア戦争が始まりました。1955年と1956年に戦争が激しくなり、分遣隊の兵士が再び召集されました。兵士たちは再び軍隊で過ごさなければならぬので、デモをおこないました。ボラディエは空軍でこのような兵士の部隊の指揮する決心をしました。アルジェリアで彼はすぐに虐待や拷問に直面しました。彼は「黒いパトロール隊」を創り、アルジェリアの人びととの関係を強化し、ニューディール政策を始めました。「黒いパトロール部隊」はすぐに成功し、1956年にボラディエはその軍司令官に任命されました。しかし彼は拷問をするよう命令を受け、1957年3月彼は*L'Express* という新聞に拷問を非難した記事を投稿しました。防衛大臣は罰として彼を6か月監獄に入れました。1961年4月に軍隊でクーデターが起こったとき、彼は軍隊を辞める決心をしました。

アルジェリア戦争後、彼は非暴力主義と出会いました。1973年彼は太平洋でおこなわれたフランス核実験に反対してニュージーランド反核運動に加わり、長い旅に出ました。平和主義者たちは逮捕され、投獄されました。それから彼は全面的に非暴力主義者となり、「非暴力主義行動のための運動」という組織を創設しました。彼は1986年2月22日に亡くなりました。いくつかの村、都市、そしてパリでさえも彼の名前を通りや広場の名前に使っています。

## 平和歴史会議：ロンドン 平和歴史会議に参加して

山根和代

3月28・29日にロンドンにある帝国戦争博物館で平和歴史会議が開催され、私はCND(核軍縮運動)副議長のブルース・ケント氏に招待されて参加しました。私は日本の平和主義者を2人紹介しました。(岡まさはる長崎平和資料館の創始者である岡まさはる氏と、東京にある「女たちの戦争と平和博物館」の創始者である松井やより氏)このような人々は海外では全く知られておらず、Movement for the Abolition of War のウェブサイトで紹介されました。

<http://www.abolishwar.org.uk/home.shtml>

ブルース・ケント氏によると3月23日から27日まで、平和運動で米軍基地を閉鎖に追い込んだグリーンナムコムの米軍基地跡地から、核兵器製造施設のあるオルダーマストーンまで約20km平和行進をしたそうです。そしてオルダーマストーンでは、英国が核兵器廃絶で指導性を発揮することを求める要請文を核兵器製造施設管理者に提出したそうです。平和歴史会議では、1958年ロンドンからオルダーマストーン核兵器製造施設まで約80kmを4日間かけて約1万人が反核平和行進をした記録映画を見て驚くと同時に大変励まされました。その他フランスの将軍である General de Ballardiere が、戦争を体験して平和主義者になった講演などを聴き、海外の平和運動は平和主義者について

学ぶ必要性を感じました。

ところで5月にパキスタンの平和研究者であるシカNDERさんが「草の家」に来られた時、反戦詩人の植村浩や憲法の草案を書いた植木枝盛などについて説明をすると、是非英文の資料がほしいと言われました。今後このような日本の平和主義者について海外に発信していく必要性を感じました。

## パキスタンの少女の詩

次の詩は、パキスタンの12歳の少女、ルマナ・メディさんの詩です。

### 人々の苦しみ

値段のついたあらゆる物が、お空に話しかけている。  
貧しい人びとは、何をかうのでしょうか？

お肉は買えないし、お米も小麦も買えないの。

何日も飢えなければならず  
このように誰も餓死するのを防ぐことができないのです。

税金はどこへ行ったのかしら？  
それは良くないことに使われている。

人々が犬のように食べ物を探している時に政府のまわりくどいおしゃべりは、何の役に立つのでしょうか？

政府は人びとの不満に耳を傾けないで  
聖者のように振舞っているのだから！

\*\*\*\*\*

## ミュージズと Muse について

「平和のための博物館・市民ネットワーク」の通信「ミュージズ」と英文 Muse は、下記のウェブサイトで見ることができます。

Muse 1-5: 平和資料館「草の家」

<http://ha1.seikyoku.ne.jp/home/Shigeo.Nishimori/>

Muse 6-18: 東京大空襲・戦災資料センター

<http://www.tokyo-sensai.net/muse/index.html>

日本語の「ミュージズ」は以下のホームページで見ることができます。

ミュージズ 4-6: 平和資料館「草の家」

<http://ha1.seikyoku.ne.jp/home/Shigeo.Nishimori/>

ミュージズ 7-20: 東京大空襲・戦災資料センター

<http://www.tokyo-sensai.net/muse/index.html>

## 出版物

「国際平和と日本の道」東アジア共同体と憲法 9 条：  
望田幸男、田中則夫、杉本昭七、藤岡惇、大西広、浅  
井基文著、昭和堂 2007 年

広島大学平和科学研究センター研究報告 No. 39 峠三  
吉自筆草稿画像目録 2007 年 11 月

大量虐殺 Genocide Genocidio エルネストーカーン  
多喜百合子著 日本図書センター 日本語・英語・ス  
페인語表記 2006 年

平和文化研究第 29 集  
長崎総合科学大学長崎平和文化研究所 2008 年 3 月：  
ソムニ虐殺の遺産と戦争・平和 ベトナム戦争遺跡が  
問いかけること（藤本博）など。

War No More: A DVD and discussion outlines to  
bring about a war-free world written by Valerie  
Flessati. Appearing in the film: Martin Bell, Bruce  
Kent, Carokine Lucas MEP, Professor Sir Joseph  
Rotblat, Jon Snow, Desmond Tutu and others.

*Educating for a Culture of Social and Ecological  
Peace* edited by Anita L. Wenden: State University  
of New York Press. 2004

## お願い

2008 年度になりました。まだの方は 2008 年度会費 2000  
円の納入をお願いします。2007 年度以前の会費を未納の  
方はあわせてお支払ください。すでに納入された方を除き、  
請求と振替用紙を同封しております。会費の納入をよろし  
くお願いします。

国内の博物館のニュースについては、6 月までに開始  
された特別展・企画展などを紹介しました。次号は 2008  
年 11 月に発行を予定しています。各館、各団体などの取  
組を紹介する原稿を 10 月末までに、編集担当の山辺か  
山根の方にデータでお送り下さい。原稿の提出がない博  
物館については、編集担当の方で記事を作成します。

第 6 回国際平和博物館会議の案内は、前号の 20 号  
に掲載しています。立命館大学国際平和ミュージアム  
のホームページから、国際平和博物館会議のサイト  
[http://www.ritsumei.ac.jp/mng/er/wp-museum/confe  
rence/index.html](http://www.ritsumei.ac.jp/mng/er/wp-museum/conference/index.html) に入り、参加登録が出来ます。  
多くの方が参加され、報告もされることを望みます。

## おことわり

無署名の記事は、編集者の責任でまとめたものですが、  
署名記事は執筆者の責任で書かれたもので、「平和のため  
の博物館・市民ネットワーク」の事務局や編集者の見解  
を、必ずしも示すものではありません。